

感想評 2016・2・13 公演 37 回 kyoto 演劇フェスティバル参加作品

パペットてなもんや「ゴキゲンな人形劇」

評 荒木昭夫（京都児童青少年演劇協会）

よく続きますね。ゴキゲンなんですね。 ニワ。ファイヤー！

自由な時間を味あわせていただきました。

あなた方の、魂が開放されているのですね。

これも 10 年という歳月のなせるわざなんですね。

どう自由なのか。

あなた方には「フレーム（閉じられた枠）」がありません。

高さも、低さも、支えも、浮力も、重力も。

捉え方も、役割の分担も。

つまり、今、思ったこと、が、そのまま、表現されているのでしたね。

思ったことを、そのまま「表現！」、となっていました。

これって、きっと、新しい分野なんですよ。

終演後の観客への「問い」に、「ファイヤー」、つまり「ごみ問題」に沢山の手が上がりました。上げたのは、大人たちでした。 特にお母さんたちでしたが、これは、現実の、生活の問題で、こんなにも、問題が切実で、日々の処理に悩まされていた、ということでした。隣近所の、不届き者めが！ と。

ここに現れたカラスの形象は、秀逸でしたが、どこかで見覚えのある、カラスくんでした。

「シャッターチャンす！」のおばあさんは、何歳におなりでしたか。
お久しぶりにお会いしましたが、お変わりなくお元気そうで、安心しました。
記念写真。良い記念になりましたね。
ブロマイドにしてお売りになりませんか。そしておばあちゃん、
プロの写真家の域になりました。

さて。パペットてなもんや さん。次なる飛躍を、期待しています。
どんな世界を創られますか。

．．．．． てなもんや っていう具合に軽々と、
「あっ」 と言わせてくださいね。